



兵庫県隊友会

隊友会県本部だより

発行責任者：兵庫県隊友会長 小川 祥一 編集責任者：中 筋 功二

兵庫県隊友会事務局：宝塚市ふじガ丘23-6 ☎090-2708-3451

新年ご挨拶

兵庫県隊友会長

小川 祥一



会員の皆様におかれましては、令和2年の輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、平成から令和へと新しい時代へと進む節目の年でした。兵庫県隊友会としては、新時代における国民と自衛隊の架け橋として、相互の理解を深めるとともに、憲法における自衛隊の地位・役割の明文化や防衛意識の高揚に努め、国の防衛及び防災施策、慰霊顕彰事業並びに隊友会会員・自衛隊退職者等の福利を増進することを目的とした活動を行なって参りました。これらの活動に、ご参加ご支援して頂いた会員各位のご努力に敬意と感謝を表す次第です。

さて、昨年は我が国の安全保障に関わる環境には大変厳しいものがありました。北朝鮮は相変わらず弾道ミサイル発射を繰り返しています。中国やロシアは軍事力を増大させ艦船・航空機による示威活動を行っております。従来同盟国とみなしていた韓国の外交・安全保障政策には理解しがたいものがあります。このような情勢の下、防衛省・自衛隊は我が国の防衛や周辺空域・海域の監視警戒など防衛に直接関わる実務や厳しい訓練、また、台風15、19号等対処の災害派遣、ジブチにおける海賊対処行動等の国際貢献に慌ただしい1年でした。今年こそは平穏な1年になって欲しいと祈るばかりであります。また中東派遣海上自衛隊部隊の無事任務完遂して帰国されることを祈念申し上げます。

このような情勢の中、兵庫県隊友会は本年創立60周年を迎えます。記念行事の実施、県内各地域での防災訓練への参加、慰霊顕彰事業の実施、自衛隊の行事・活動への支援、自衛隊家族支援等、各種施策を行って参りたいと思います。皆様のご参加ご支援をお願い申し上げます。

末尾になりますが新年にあたり皆様のご健勝ご健康をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

近畿ブロック研修会を開催

兵庫県隊友会は、昨年9月29日（日）兵庫県民会館において、「近畿ブロック研修会」を運営担当しました。

本部の重岡常務執行役を中心に、近畿担当酒井執行役が司会進行、熊谷執行役同席のもと2府4県会長・事務局長、兵庫県からは、副会長・各支部長出席のもと、「退会者の現状とその防止策」をテーマに、状況を発表・意見交換を行いました。

兵庫県としては、各支部の工夫した諸施策を紹介し、本部及び他府県から強い関心を持っていただくことができました。

会議の後、中部方面総監部幕僚長木口陸将補の演題「自衛官の倅」を聴講、次いで懇親会は第3師団長はじめ県下駐屯地・基地隊司令、各地本本部長ほか多数の隊員をご招待し、県下会員とともに盛大に開催いたしました。

準備から各支部長はじめ、多数の会員方々のご協力に対し感謝申し上げます。

(事務局長)



栄えある受章おめでとうございます

第33回危険業務従事者叙勲受章者

令和元年11月3日付 (敬称略順不同)

瑞宝双光章

飯田 昌良 (神戸市) 池田 浩 (伊丹市)

沖永 清次 (姫路市) 鈴木 栄一 (加東市)

田中 睦久 (姫路市) 南光 俊明 (伊丹市)

瑞宝単光章

大亀 明 (加古川市) 河口 行仁 (宝塚市)

佐々木 幸茂 (姫路市) 中祖 匡 (尼崎市)

今は懐かしい現役当時の思い出 (トルコ共和国への国際緊急援助活動)

姫路支部 事務局長 古西 真吾

兵庫県隊友会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

令和2年(皇紀2680年)が始まりましたが、如何お過ごしでしょうか。

この度は海自出身の私が懐かしい現役当身を振り返り、任務の一端を紹介できればと思い投稿させていただきました。

内容は、もう二昔前になりますが、平成11年8月トルコ共和国を襲った大地震により死傷者約7万人、住宅を失った人50万人を超える大災害があり、日本政府は親日国のトルコ共和国へ国際緊急援助法に基づき、海自に対し「阪神・淡路大震災で使用した仮設住宅500戸をトルコ共和国へ緊急輸送せよ！」と命が下り、出動が決定されときの思い出です。

なお、本題に入る前にトルコ共和国は大変親日国ですが、何故親日国か？ 皆さんもご存じかとは思いますが、エルトゥールル号遭難事件がきっかけとなっています。

明治23年オスマントルコ帝国軍艦エルトゥールル号に乗り使節団が来日、明治天皇に拝謁後帰国途中、和歌山県串本町沖で台風に遭遇、同号は座礁、587名が死亡、串本町大島の住人が必死の救助にあたり69名を救出、その後、大日本帝国海軍の軍艦「比叡」と

「金剛」でトルコまで丁重に送りました。当時のトルコの人々は遠い異国である日本国と日本人に対し好印象を抱いたと言われています。時は流れて昭和60年、イラン・イラク戦争が激化するなか、フセイン統治下のイラクは、テヘラン空爆を開始、「今から48時間後にイラン領空を飛行する航空機は民間機であるとべて撃墜する。」と通告、当時テヘランには日本企業の社員や家族等250名がいました。



オスマントルコ帝国軍艦
「エルトゥールル号」



エルトゥールル号殉難将士慰霊碑

各国は航空機を派遣し自国民を救出、しかし当時の日本政府は危険区域ということで派遣せず悲しいかな日本人のみ、そのままテヘランに取り残され、イラクの空爆下を逃げ惑うしかない状況に追い込まれつつありました。その時、当時のオザル・トルコ大統領が「今こそエルトゥールル号の恩を返そう」と決断、トルコ政府が航空機を使って日本人を救出、期限ぎりぎりで危機を脱することができ、全員トルコ経由で無事に帰国できました。ちなみにこのとき、テヘランに取り残されたトルコ人がいましたが日本人を優先させたのです。それについて非難するトルコ人は一人もいませんでした。(トルコ人は車でなんとか脱出) 決死のフライトに駐日トルコ大使は「エルトゥールル号の借りを返していただけです。」と述べています。

私たちですら忘れていたことをトルコの人々は100年近く経っても胸に留め続け、命懸けで行動してくれたのです。

現在、和歌山県串本町の檜野崎灯台のそばにエルトゥールル号殉難将士慰霊碑及びトルコ記念館があり、町と駐日トルコ大使館の共催による慰霊祭が5年ごとに行われ、海自も音楽隊、儀仗隊が毎回参列しています。以上のような経過からトルコ共和国は親日国であり、現在でも良好な友好関係が続いています。

さて、本題に入りますが、海自はトルコ共和国派遣海上輸送部隊(輸送艦おおすみ、補給艦

ときわ、掃海母艦ぶんご)を編成、私は当時、輸送艦「おおすみ」に乗艦していました。

輸送艦の主任務は、陸自の人員、車両の輸送、揚陸等ですが、この度の任務は通常と違い輸送するのは、分解された仮設住宅が格納されたコンテナ船用のコンテナのみ、したがって甲板にコンテナ用の固定金物を溶接する必要があり、各艦は急遽、造船所に入り改装の突貫工事を行うことになりました。



コンテナ船に変身した？
「おおすみ」

被災者の気持ちを考え“厳しい冬が到来する前に一日でも早く仮設住宅を届ける！”を合言葉に改装工事は急ピッチで進められ工事は完了、平成11年9月23日各艦は神戸港に集結、防衛庁長官、駐日トルコ大使、乗員家族等多数の見送りの中、トルコ共和国に向け出港、航路は南シナ海を南下、海上テロ等に対する警戒航行を実施しつつマラッカ海峡通過、インド洋を西進、同行の補給艦「ときわ」とは定期的に洋上補給を行い、スエズ運河を北上、エジプト共和国のアレキサンドリア入港、この間22日を無寄港で連続高速航行し、海自史上初の航行記録となりました。

翌日出港、地中海、エーゲ海を北上、26日間9000マイルを航行し、10月19日トルコ共和国イスタンブールのハイダルパシャ港に入港、岸壁にはトルコ共和国政府関係者、海軍及び市内の小中学生の皆さんが出迎えて下さり、大歓迎を受けるとともに引き渡し式会場において、式典をテレビで生中継す

るなど報道も過熱し、大変感動したのを昨日のように思い出します。

式典終了後、直ちにコンテナの陸揚げ作業を徹夜で行い、すべてのコンテナを陸揚げし、任務を完了したときには大任務を完遂した満足感で胸一杯になり、これで被災者の人々も喜んでくれると思うと感慨深いものがありま



入港を大歓迎してくれた
トルコの子供たち



引き渡し式での仮設住宅
500戸の目録贈呈

した。

陸揚げ作業終了後、部隊は補給と休養のため3日間イスタンブール沖に停泊、鋭気を養い、10月24日イスタンブールに別れを告げ出



イスタンブール沖に停泊中の各艦、
左はトルコ海軍フリゲート後方は
イスタンブール市街

港、大任務を完遂し満足感で帰路の航海は船足も幾分軽やかに感じ、途中地中海でトルコ、アメリカ及びフランスの各軍艦と親善訓練を実施しつつ往路と逆のコースを航行し、往復18000マイル(34000キロ)61日間の航海を終え、約2か月ぶりの11月21日海自関係者、乗員家族等多数が出迎えるなか母港の呉に帰港しました。

なお、この国際緊急援助活動は「ブルーフェニックス大作戦」と称され、全記録は防衛ホーム新聞社より記録写真集(H12.2.15)として発行されています。また、派遣海上輸送部隊には防衛庁長官から第一級賞状が授与され、翌年の平成12年3月、皇居において国際緊急援助活動に尽力した団体(海上自衛隊、海上保安庁、消防庁)の代表が天皇陛下に拝謁することとなり、私も派遣海上輸送部隊代表として、この栄誉を賜ることとなりました。当日は大変緊張しましたが、天皇陛下より心温まる労いのお言葉を賜り、大変感謝するとともになぜか込みあげてくるものがあり、あの日を一生忘れることはありません。

最後になりますが、日本国とトルコ共和国との友好、親善に少しでも寄与できたことは、私の現役勤務のみならず、人生においても大変貴重な経験であり、今でも派遣海上輸送部隊に参加させていただいたことを心より感謝しています。

今となっては懐かしい現役当時の思い出を振り返ってみましたが、陸自、空自出身の会員には本稿において海自任務の一端を少しでも知っていただければ幸いに思います。

兵庫県庁及び周辺再整備計画

隈研吾氏の設計事務所などが提案した県庁周辺再整備のイメージ

産経WEST(県提供)より引用



支部便り

地本退官見送りに参加

神戸東支部 事務局次長 久保田 博文



神戸東支部（支部長 栗原正雄）は、7月2日兵庫地本援護課予備自衛官訓練係 三輪美江陸曹長の退官式見送りに参加しました。

退官式は、兵庫地本2階会議室において実施され、見送りでは本部長以下、部員の皆様と正面玄関前で見送り、その際、栗原支部長より三輪美江陸曹長に花束を贈呈しました。

私が三輪さんに最初にお会いしたのは、兵庫地本で実施された予備自衛官1日召集訓練における「入会勧誘と激励」の折でした。挨拶した時の笑顔の対応が非常に印象に残っています。

支部主催の親睦行事等に対して幾度も出席していただき、明朗闊達で実直なお人柄は、同僚ばかりでなく、元上司（会員）や予備自の方々からも評判は同じでした。また懇親会でのビールの飲みっぷりは、とても気持ちの良いものでした。在職中には、鍼灸師養成専門学校二部に5年間在学され、卒業後に国家試験に合格。退官後は、鍼灸師としての道を歩まれるとお聞きしています。

また、会員として当支部に所属され、女性自衛官として培ってきた行動力と経験、女性としての目線により、さまざまな観点から隊友会活動に生かしていただければと会員からも期待が寄せられています。

機会あれば腰痛の治療等診療していただければと願っています。

— 三輪さんの —
「退官後の人生に幸あれ」
神戸東支部会員一同より



映画「アルキメデスの大戦」を観て

姫路支部 事務局次長 小嶋 榮治



戦艦大和の撃沈されるシーンが凄いというテレビの宣伝文句につられ、久しぶりに映画館に足を運びました。

大和と米軍機の壮絶なる戦闘場面から映画が始まりました。CGとはいえ多くの魚雷や爆撃攻撃に不沈戦艦と信じられた大和が傷つき、戦闘不能になり、大爆発を起こし沈んで行く姿は真に迫り、当時の戦闘の実相もこの様であっただろうと思うと胸の高まりが大きくなり、心の底から熱いものがこみ上げてきました。

その後、逸る気持を抑えつつ画面を食い入るように見ていたら、今までの興奮を一気に興奮めにさせるシーンがあり、愕然とさせられました。

それは、主人公が大和設計の参考とするため戦艦長門を訪れるシーンでありました。長門に乗艦したその背景の甲板上には、白い洗濯物が洗濯ロープに吊るされ風に靡いていたのです。

日本海軍には絶対あろうはずのない状態が映し出されていたのでした。私は思わず「それはないぞ」と口に出して叫びそうになりました。

日清戦争勃発以前の明治二十四年、清国は、北洋艦隊司令官丁汝昌提督が率いる当時世界最強と言われた鎮遠・定遠の姉妹艦を主力とする数隻の艦隊を親善友好という名目で日本に派遣し、外交上の圧力をかけてきました。

当時の日本は明治維新をへて開国して間もない時期であり、国力も十分でなく、清国の脅威に黒船以来の衝撃を受け恐れ慄いていました。

ところが日本でただ一人、清国海軍恐れるに足りずと確信した人がいました。訪問の途中で

平遠が修理のため呉軍港に入港しました。ドック近傍を散策中のその人は、神聖な軍艦の砲塔に洗濯物がぶら下がっているという信じがたい光景を目にしたのです。かかる不作法を外国で行うというのは、彼らの覚悟の程も推し量られ、いかに堅艦巨砲を持っているといえどもその威力を十分には発揮することはできないと看破したのです。

後の日清戦争では彼の見立てどおりとなり、日本海軍は完膚なきまでに清国海軍を撃破し、大勝利を収めたのでした。その彼とは、日露戦争の日本海大海戦で日本を大勝利に導いた若き日の連合艦隊司令長官東郷平八郎その人でありました。

兵庫県隊友会創立60周年記念行事 令和2年定時総会日程について

日程 令和 2年 6月 27日 (土)

場所 兵庫県民会館

内容につきましては、理事役会等を通じ
て調整をしています。

隊友会 再々就職支援事業に関するお知らせ

隊友会ではフルタイムの仕事に加えて、昨年は期間を限った委託業務として、即位の礼とG20 大阪サミットに関する業務を紹介したところ300名を超える会員の皆様に希望登録いただき、計 252名の会員に参加いただきました。今後はこのような業務の情報提供にも力をいれてまいります。

東京2020オリンピック 聖火リレー 関係車両運転手募集

【業務内容】2020年3月20日から7月24日までの4ヵ月間、東京オリンピック聖火リレーに関する 車両の運転業務で、福島県を皮切りに47都道府県を宿泊・帯同してまわる業務です。運行車両は、トヨタのRAV4、ハイエース、ノア、アルファード、マイクロバスです。詳細は隊友会HPをご覧ください。

県本部主要活動状況 (令和元年6月～令和元年12月)

- 6月 1日 阪神基地隊開隊記念行事
- 6月 1日 姫路駐屯地殉職者追悼式
- 6月 7日 防衛懇話会 (楠公会館)
- 6月 9日 第1回理事役会 (県民会館)
- 6月23日 令和元年度 (第59回) 定時総会 (県民会館)
- 6月25日 県隊友会長合同会同・隊友会全国定時総会 (東京都)
- 6月26日 募集協力者会同 (東京都)
- 7月28日 青野ヶ原演習場殉職隊員慰霊碑清掃活動 (東播支部)
- 9月29日 近畿ﾌﾞｯｸ研修会 (会長以下3役・支部長) (県民会館)
- 10月 6日 中部方面隊創立記念行事
- 10月 6日 鶉野平和公園祈念行事 (東播支部)
- 11月 2日 護国神社祭礼支援 (姫路支部)
- 11月 9日 第3師団殉職隊員追悼式
- 11月17日 姫路駐屯地創立記念行事
- 12月 8日 小野ハーブマラソン支援 (東播支部)
- 12月 8日 第2回理事役会 (県民会館)
- 12月18日 姫路城清掃支援 (姫路支部)

徽章・ロゴバッジの販売について

近日中に県事務局より、支部事務局に対しまして、「隊友会徽章」「ロゴバッジ」購入意向調査を実施いたします。

購入ご希望者は、各支部事務局を通じて、県事務局までお申し付け下さい。

★ 徽章

※A型 (白色) B型 (群青色) とありますが、特に決まりはありません。

900円

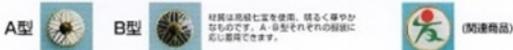
★ ロゴピンバッジ

900円

★ 徽章・ロゴバッジセット

1,800円

●**会員記章** 定価 A・B共 ¥900 (紙ケース入り) ●**ロゴ・バッジ** 定価 ¥900



●**会員記章とロゴ・バッジセット** (プラスチックケース入り)

定価 1セット ¥1,800
会員記章はA型又はB型 タイユウサービスHPより引用

主要行事案内 (令和2年1月～令和2年3月)

- 1月11日 防衛関係諸団体新年互礼会 (伊丹・宝塚・川西地域支部)
- 1月12日 中部方面隊音楽まつり (西宮市)
- 1月26日 阪神・淡路大震災25年祈念特別演奏会 (神戸市)
- 2月14日 潜水艦「おうりゅう」壮行会 (神戸市)
- 2月15日 支部長等合同会議及び第3回理事役会 (県民会館)
- 3月上旬 第36普通科連隊創立記念行事
- 3月上旬 入隊・入校激励会 (県内各地)
- 3月中旬 練習艦隊入港歓迎行事

人事往来 (発令順)

【部隊等】

兵庫地方協力本部 副本部長

(離任) 防衛事務官 板谷 裕司 (防衛装備庁長官官房)

(着任) 防衛事務官 吉田 貴志 (内局整備計画局室長)

元年 7月 30日付

阪神基地隊司令

(離任) 海将補 深谷 克郎 (退職)

(着任) 1等海佐 寺田 博之 (海自幹部学校
戦略部長)

元年 7月 31日付

中部方面総監

(離任) 陸将 岸川 公彦 (退職)

(着任) 陸将 野澤 真 (第2師団長)

第3師団長

(離任) 陸将 田中 重伸 (陸自教育研究本部長
兼目黒駐屯地司令)

(着任) 陸将 梶原 直樹 (統合幕僚監部
防衛計画部長)

第8高射特科群長兼青野ヶ原駐屯地司令

(離任) 1等陸佐 小山 直伸 (陸幕防衛部防衛課長)

(着任) 1等陸佐 押川 誠 (陸上総隊司令部運用部
国際協力課長)

元年 8月 23日付

中部方面総監部 幕僚副長

(離任) 陸将補 斎藤 兼一 (陸上総隊司令部
日米共同部長)

(着任) 陸将補 安井 寛 (東北方面総監部人事部長)

元年 12月 20日付

物故者 (令和元年7月～令和元年12月)

「謹んでご冥福をお祈りいたします」

氏名	所属	享年	他界日
間所 義一	伊丹	82	令和元年 7月25日
板垣 正三	姫路	69	令和元年 8月17日
谷上 一誠	伊丹	89	令和元年 9月 8日
坂岡 宏充	姫路	82	令和元年 9月12日
吉川 修	姫路	84	令和元年 9月13日
荒木 和義	伊丹	76	令和元年11月10日



情報提供のお願い

自衛官募集中

自衛官候補生・曹候補生の…

入隊年齢の幅が広がりました!

18歳～33歳未満

※入隊月の3ヵ月後に33歳未満

自衛隊に興味があるけど、
年齢制限であきらめていた人
就職してるけど、再
チャレンジしたい人

編集後記

昨年「クマ出没」のニュースが、よく報道されました。国内には、2種のクマが生息しています。エゾヒグマ(北海道)、ニホンツキノワグマ(本州・四国)です。この2種は、いずれも冬眠しますが、飼育下のクマは餌に不自由することがないので冬眠はしません。それでも12月～4月頃まで動物園にいるクマは、非常に眠たいのです。行動が鈍くなり、偏食も顕著となって、採餌が減ります。また代謝も悪くなり、体についての脂肪は落ちなくなります。生理的には、冬眠に近い状態になっています。

さて、令和2年度は、第60回定時総会及び創立60周年記念行事が開催されます。県隊友会の発展に大きく寄与されました全ての方々、各支部で中心となって運営をされています支部役員の皆様、積極的に活動に参加されています会員の皆様に深く御礼を申し上げます。

役立つ情報満載、隊友会HPを是非ご覧下さい。
<http://www.taiyukai.or.jp/>

事務局 中筋